

# 児童会・生徒会活動の連携を通し、より良い学園を目指した小中一貫教育の取り組み

－ いじめのない、笑顔あふれる学園をつくろう －

つくば市立輝翔学園谷田部中学校 教諭 樋口 康彦

キーワード：ICT活用、小中一貫教育、9年間の学び

## 1. 従来課題

本実践は、ICTを活用し、生徒がまとめ、発信し、異学年や他校の生徒、先輩、地域との関わりをもちながら、いじめ撲滅に向けて取り組んだ実践である。

一昨年6月から取り組んでいる本実践では、まず生徒会本部役員が起点となっている。「笑顔あふれる学校・学園をつくりたい!」との思いから、どのような取り組みが必要かと生徒と共に考えた。

いじめは絶対にあってはならない、誰もが笑顔あふれる学校・学園をつくりたい、これは誰もが大切なことだと理解している。笑顔あふれる学校・学園をつくるために、どうしたら生徒が主体的になれるのか、どうしたら中学校だけにとどまらず、学園内の小学校や他の学園、地域を巻き込むことができるのかをねらいとした活動である。

## 2. 目的・目標

### (1) 小中一貫教育、学園としてのねらい

小中一貫教育を進める本学園は、3小1中の施設分離型の小中一貫校である。施設の離れた学校同士が同じ時間に話し合いを進めていくためには、テレビ会議システムの活用が欠かせないものである。児童会と生徒会との話し合いを「輝翔学園子どもサミット」と呼んでいるが、距離の壁を解消した取り組みだと言える。今年度も昼休みの時間に4校で話し合いを進めてきた。(写真1)

年間4回の実施を計画しており、第1回(6月)では自己紹介や中学校の取り組みの紹介、100万人の行動宣言に学園全体で取り組むことの呼びかけを行う。第2回(9月)では、小学校の100万人の行動宣言についての紹介を、第3回(12月)では行動宣言を振り返り、最終回の第4回(2月)では学園ブロック集会を開くための打ち合わせを行う流れになっている。



写真1 児童会・生徒会が話し合いをしている様子

### (2) 意見を深めるためのICT機器の活用

生徒同士の話し合いを活発にし、プレゼンテーションをする意欲を高めるものが、スタディノートやスタ

ディノートポケットになると感じている。1つの画面を皆で作りに上げていく中学生未来議会でのプレゼンテーションや卒業生からアドバイスを受けた「学校・学園をより良くするために」プロジェクトで行ったプレゼンテーション、地域発信向けの学園発表会でのプレゼンテーションはスタディノートやスタディノートポケットを効果的に活用した実践だと言える。(写真2)



写真2 3校の代表生徒が話し合いをしている様子

## 3. 実践内容

### 3.1 市全体を巻き込んだいじめ撲滅への取り組み

生徒集会において、いじめのない、笑顔あふれる学校をつくるために100万人の行動宣言に取り組みたいことを全校生徒に伝えた。主体的に参加できるように、学校の実態を調査するアンケートを実施し、署名活動を行った。そのような中学校での取り組みを小学校にテレビ会議システムを用い、紹介する活動を行った。また一方で、市内他中学校とも連携を取り合い、いじめに対する考えや取り組みを伝え合い、つくば市の学校からいじめをなくすために、いじめ撲滅宣言を市に提案することになった。毎年1月に行われているつくば市中学生未来議会では、各学校からの代表である中学生議員に対し、スタディノートにまとめたいじめに対する考えや取り組みを紹介し、いじめ撲滅宣言を提案し、採択された。(写真3)



写真3 中学生未来議会の様子

### 3.2 より良い学校・学園を目指して

さらにより良い学校・学園を目指し、いじめをなくすために、いじめに対する専門家（カウンセリングアドバイザー）からアドバイスを聞く機会を設けた。生徒たちは、教師のアドバイスを基に、「学校・学園をより良くするために」をテーマに話し合いを進め、スタディノートポケットを用い、自分たちの考えをまとめた。そして、まとめたことを卒業生にプレゼンテーションし、さらにアドバイスを受けた。（写真4）



写真4 卒業生からアドバイスを受けている様子

### 3. 3 地域に向けた学園発表会

地域向けに行われた学園発表会では、生徒たちが作ったスタディノートの画面を用い、学校・学園で行っているいじめ撲滅に向けての取り組みを発信した。中学校だけにとどまらず、学園からいじめをなくすために、笑顔あふれる学校・学園をつくるために、現在も取り組みを継続して行っている。（写真5）



写真5 地域向けに、取り組みを紹介している様子

## 4. 成果

活動を実践していくにあたり意識したことは、発信型プロジェクト学習にすることである。学校の実態や課題を見つける活動をはじめ、中学校だけでなく、小学校や他校の取り組みについての情報を集める活動を行った。そして中学生未来議会において自分たちができることを発信した。さらに、より良い学校・学園をつくるためにもう一度取り組みを見つめなおし、専門家の話を聞き、卒業生からもアドバイスを受ける。それらを通して、地域に向けて取り組みを発信していく。これら一連の流れを意識した活動の中に、ICTを活用することで、生徒の積極的な姿勢、真剣なまなざしが生まれ、生徒一人一人が、自分たちが自分たちの学校・学園をつくっているという主体的な発想につなが

ってきた。

自分が他の生徒にどのような関わりをすればいいのか、どうすればより良い方向へ進むのかという発想を生徒たちはもてるようになっていく。また、生徒対象の生活アンケートの「学校に行くのが楽しみである」という項目では、実践を行って行くにつれて、前向きな回答が増えている。これらのことから生徒たち自身が、自分の学校・学園をつくっているという意識の高まりを非常に感じることができている。

さらに、異学年で行っている輝翔学園子どもサミットでは、児童会の小学生が生徒会の中学生にあこがれ、中学生が小学生の手本（グッドモデル）となろうという相乗効果も見られる。また、スタディノートをまとめる際も、上級生が下級生にアドバイスする様子も見られた。画面の作成では、相手に伝えることを意識して文字や色を工夫したり、写真を効果的に取り入れるなどICT機器をツールとして活用できる生徒が着実に増えている。

また、実際に地域に向けてプレゼンテーションをすること、つまり本物の舞台を用意することで、生徒たちの意欲の高まりも強く感じられた。

## 5. 今後に向けて

生徒の作り上げたいじめ撲滅宣言の具現化に向け、そして笑顔あふれる学校・学園をつくることを目指し、児童・生徒が連携し合い、主体的、協働的に取り組むことを目指している。

本校の課題として、ネット上での人間関係のトラブルが散見されるということが挙げられる。情報モラルを学ぶ機会や、人間関係を円滑に構築するための気持ちの伝え方、アンガーマネジメントについての活動にも力を入れていく必要がある。

また、いじめ撲滅のために行っている100万人の行動宣言のさらなる充実をどう図るかということも課題である。生徒自身の行動宣言の振り返り、行動宣言は取り組んでいるのか、さらに改善する必要があるのかをしっかりと行うことが必要になる。さらに、教師が生徒の行動宣言やそれに伴う行動についての評価をどのように行うかも課題である。

このいじめ撲滅に向けての取り組みを、教科や領域に明確に位置づけたり、小中連携を意識した活動を計画的に行ったりすることもまだまだ不十分である。学校・学園からいじめをなくすことを目指して取り組んできたが、さらに地域からいじめをなくし、笑顔あふれる地域社会を目指して活動に取り組んでいきたい。そのためにも、カリキュラムマネジメントや地域と共にある学校づくりについてもさらなる研修が必要になると感じている。